令和3年度 県立鬼怒商業高等学校自己評価表

目指す 学校像	○保護者や地域の期待と信頼に応え、地域のリーダーとなる「人財」を育成する学校 ○生徒が自ら考え学ぶことをとおして、一人一人の資質・能力や個性を伸ばす学校 ○安心・安全な学校					
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況			
<p>【学習指導】 分かる授業づくりを推進し内容の充実を図るために、学力向上推進委員会を中心として校内研修会及び相互授業観察を実施し、質の高い授業実践を日々目指している。 また、コロナ禍において大きく進展したGIGAスクール構想の実現に向けて、ICT端末を効果的に活用した学習活動を推進していくことが課題である。</p> <p>【進路指導】 コロナ禍のため、インターンシップ等の進路行事が実施できなかった。今後は、オンラインによる会社見学、説明会及び試験が増加することが予想されるため、校内LAN環境整備及び職員のスキル向上が課題である。 その他、全職員が模擬面接指導に当たることにより、生徒一人一人にじっくりと向き合っ指導することができた。 また、「進路の手引き」については、「面接ノート」同様、有効に活用していきたい。</p> <p>【生徒指導】 服装や頭髪に関する指導や問題行動は減少傾向にあり、大半の生徒は落ち着いた学校生活を送っている。しかし、SNS上での情報発信によるトラブルは増加傾向にある。</p> <p>【特別活動】 コロナ禍のため学校行事が予定どおり実施できない状況ではあったが、体育的行事や文化的行事に関しては対策を講じて臨機応変に対応することができた。 部活動についても大会が中止となる中で、それぞれ工夫しながら活動した。部活動加入率については、50%を目標としたが、最終的に51%となり、目標を達成することができた。キャリア・パスポートについて、ホームルームで活用することが出来た。</p>	生徒の個人的資質の向上	○基本的生活習慣の徹底及びコミュニケーション能力の向上 ○授業、部活動、学校行事等の学校教育活動全体をとおして達成感を味わうことにより、生徒の自己肯定感を向上 ○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善と、分かる授業の展開による資質・能力の向上	B			
	商業に関する専門的知識の育成	○教科内連携による指導法の共有及び公開授業等を活用した教員のスキルアップ ○タブレット端末や電子黒板等、ICT機器の有効活用による、ビジネスに関する深い学びの実現 ○探究活動をとおした、ビジネスに関する発展的学習	B			
	保護者や地域の期待と信頼に応える学校づくり	○出前授業や学校ホームページを活用した、教育活動の効果的な情報発信による募集人員の定数確保 ○キャリアパスポートを用いたキャリア教育の充実により進路希望実現100% ○ボランティア活動や地域におけるビジネス活動の充実	B			
	生徒一人一人の資質・能力を伸ばすために、学校全体で取り組む組織づくり	○カリキュラム・マネジメントにより、全職員の共通理解（同じベクトル）のもと、計画的かつ組織的な指導を展開 ○組織マネジメントの推進による、教職員間の活発な意見交換による学校運営及び業務の改善	B			
	安心・安全な学校づくり	○いじめ・体罰・災害等の防止及び迅速な対応 ○ホームルーム、授業、二者面談及び三者面談等による、生徒一人一人に対する丁寧な理解	B			
	教育活動の一層の充実に向けた業務の効率化	○各業務について、目的達成のために適切な方法となっているかの見直し ○情報の共有等の一層の推進	B			
	三つの方針	具体的目標	評価	次年度（学期）への主な課題		
	「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	○保護者や地域の期待と信頼に応え、地域のリーダーとなる「人財」を育成する学校 ○生徒が自ら考え学ぶことをとおして、一人一人の資質・能力や個性を伸ばす学校 ○安心・安全な学校	B	B ○時代の変化に主体的に対応しながら地域社会の発展に貢献できる「人財」を、学校全体で組織的に育成する。 ○新学習指導要領の着実な実施をとおして、自ら考え、他者と協力して課題解決に当たることができる資質・能力を育成する。 ○時代の変化に応じた商業教育の在り方に関する研究を推進する。	
		「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	○次の6項目を推進することにより、鬼怒商業高校生としての誇りをもちつつ、将来、地域のリーダーとして社会に貢献できる「人財」の育成に努める。 1 生徒の個人的資質の向上に努める。□ 2 商業に関する専門的知識の育成に努める。□ 3 保護者や地域の期待と信頼に応える学校づくりに努める。□ 4 生徒一人一人の資質・能力を伸ばすために、学校全体で取り組む組織づくりに努める。□ 5 安心・安全な学校づくりに努める。□ 6 教育活動の一層の充実に向けて、業務の効率化を図る。	A		
		「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・) ポリシー	○世の中の動きや商業に興味があり、商業に関する学習をしたい生徒 ○簿記・情報処理などの資格や商業の学びを生かして進学・就職したい生徒 ○目標をもち、本校での学習をとおして自分の可能性を伸ばそうとする生徒 ○学校行事、生徒会活動、部活動などに積極的に取り組む意欲のある生徒	B		
				○中学生体験入学、オンライン説明会、商業科出前授業、中学校における高校説明会への参加及び本校ホームページの活用等により、学校が期待する生徒像の周知活動を強化していく。		

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教科	国語	主体的で対話的な深い学びの実現のために必要な理解力や表現力、知識の習得を目指す。	授業内容の理解度を授業観察やノート等の点検を通して評価し、長期休業中も国語力を伸長できるよう課題等を工夫する。	A	B	<p>【達成状況】</p> <p>○生徒の学習状況を、ノートや課題の点検、授業の観察を通して評価し、その後の授業に活かすことができた。また電子黒板を活用することで、生徒の興味・関心を高め、理解を深めることができた。</p> <p>○スピーチをはじめとする様々な言語活動を通して、生徒が自分の考えを効果的に構成したり、論理的に説明したりすることができた。また韻文等の創作を通して、自己をみつめる機会を設けることができた。</p> <p>○漢字検定を6月と11月に2回実施し、受検生徒に対して課外を行い合格率の向上を目指した。</p> <p>【次年度への課題】</p> <p>○ICT機器（タブレット）の効果的な活用。</p> <p>○学校図書館を活用した読書の励行。</p> <p>○基礎学力診断テストのフィードバック。</p> <p>○新課程の指導方法。</p>
			ICT機器を効果的に活用し、学習の深化を図る。	B		
		場に応じた様々な表現の体験を通して、自己を見つめる意欲の向上を図る。	スピーチや意見交換を行うことにより、自らの考えを効果的に構成し、発表する機会を設ける。	B		
			文章を書くことや俳句や短歌等の韻文の創作により、論理的に説明したり、自らの心に向きあったりする機会を設ける。	B		
	進路に活かせるよう、漢字検定の受験を励行する。	課外や課題により、効果的な学習のサポートを行う。	B			
	社会	主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善を行い、生徒の学習意欲を高める。	ICT機器の効果的な活用によって、生徒が取り組みやすい身近な話題を学習課題として設定する。	B	B	<p>【達成状況】</p> <p>○Google Formによる小テストの実施など、ICT機器を効果的に活用することができた。また、各科目で生徒にとって身近な題材を教材化するよう心掛けた。</p> <p>○発問を工夫し、教師－生徒間の対話を充実することができた。</p> <p>○授業プリントやワークシートの点検を徹底することができた。</p> <p>【次年度への課題】</p> <p>○ICT機器（タブレット）の効果的な活用。</p> <p>○生徒間の対話の充実と適切なパフォーマンス課題の設定。</p> <p>○新課程移行後のカリキュラムの検討、教材化に向けた研究。</p>
			対話型の授業を展開し、発問を工夫したり、パフォーマンス課題を設定したりするよう心がける。	B		
		教科の基礎学力の定着を図る。	授業内容の確認プリントやノートの指導（点検）等、きめ細かい指導を行う。	A		
	数学	生徒の学習意欲・基礎学力を向上させる。	基礎基本的な学習内容を理解できるように問題演習の時間を十分に確保する。解説の際、電子黒板やタブレットを活用する。	B	B	<p>【達成状況】</p> <p>○電子黒板やタブレットを活用し、生徒の興味・関心を惹くような授業展開を心がけた。また、思考力向上を目的としたバズル等のプリントを活用し、レディネス効果が得られた。</p> <p>○生徒が質問に答え、黒板に板書するなど生徒主体の授業をすることができた。</p> <p>○机間指導を十分に行い、数学が苦手な生徒への指導を個別に行うことができた。</p> <p>【次年度の課題】</p> <p>○学習意欲・基礎学力の向上 ○苦手生徒への指導の工夫</p> <p>○家庭学習の充実</p>
			授業中の発問や机間巡視、ワーク等の提出状況から生徒の理解度を確認し、苦手な生徒には個別指導を行う。	C		
		主体的・対話的で深い学びを意識した授業を行い、生徒の思考力・判断力・表現力を向上させる。	問題演習の際、個人で取り組ませたり対話活動をさせる。また、考えを記述させたり発表させる。	B		
	理科	基礎的な学力の定着を図る。	生徒と教員及び生徒間のコミュニケーションを重視した授業を通して、一般常識にもつながる基礎的知識をしっかりと身につけさせる。	B	B	<p>【達成状況】</p> <p>○教科書の内容だけにとらわれず、日常生活の中で身近に感じられる科学的事象をできる限り取りあげる授業展開を心がけた。</p> <p>○ビデオ教材に沿った自作プリント等を作成し、基本的な知識の定着を促した。</p> <p>○質問に対する挙手誘導や前に出て問題を解かせる雰囲気を作るなど、生徒が主体的に学習するように工夫をした。</p> <p>【次年度の課題】</p> <p>○タブレットや電子黒板等のICT環境のさらなる有効活用。</p> <p>○より多くの生徒実験をするための整備及び職員内での研修。</p> <p>○コロナ禍で自宅学習となった際の生徒の自学意識の向上。</p>
日常生活にあふれる科学的事象に対する興味・関心を高める。		電子黒板やタブレット等のICT環境を有効に活用しながら、身近な物質や現象を取りあげることで、主体的な学びを促し、科学全般に対して興味・関心をもたせる授業展開に努める。	B			
物理実験室・化学実験室の整備と他教科も含めた授業での有効活用を高める。		計画的に実験室の備品等の整備を進め、実験室等の活用を活発化して、実験・実習・モニター視聴等の様々な形態の授業を取り入れる。他教科にも積極的に開放し、学校全体として有効利用を促す。	A			

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題	
教科	体育	体力の向上と各種運動技能の習得に努める。	体づくり運動の充実を図り、体力テストA及びBの割合を50%を目指す。	B	B	【達成状況】 体育 ○体力テストA及びBの割合は49%と目標の50%をわずかに達成することができなかった。 ○卒業課題については実施種目や達成度の見直し、補講を行い、目標を概ね達成することができた。 保健 ○ICTを活用した指導方法や実技研修を実施し、指導力の向上を図った。 ○各授業において身近なニュースを取り上げながら授業展開を図った。 【次年度の課題】 ○感染症に留意しつつ、生徒の基礎体力の向上を目指した授業展開を目指す。 ○体育館にWiFi環境を整備する。
		できる喜びを実感できる授業実践に努める。	卒業課題の合格率70%以上を目指す。	B		
		体育的・学校行事とのタイアップをはかる授業を展開する。	授業においてクラスマッチ種目のルール等を取り扱い、学校行事の成功と意欲の向上を図る。	B		
		よりよい体育授業の実践を図る。	担当者全員による学期1回以上の実技研修会を実施する。	A		
	保健	生涯にわたって必要な知識・技能の習得を図る。	最近話題のニュースを取り上げ、生徒の実生活に密着するよう、各場面での思考・判断能力を養う授業展開を図る。	A	A	
	英語	基礎学力の向上に努める。	ICT機器を効果的に用いた学習内容のスムーズな推移により、生徒の活動時間を増やすことで、知識の定着を図り、基礎学力の向上を目指す。	A	B	【達成状況】 ○P.P.、タブレットやデジタルテキストなど、ICT機器を目的に応じて適切に継続して使用することができた。 ○授業等で継続的な指導を行い、全商英検3級において2学年次後半までにはほぼ60%を超える合格者を出すことができた。 ○小テストや単元テストなどの段階的な指導で、基礎学力向上を目指すことができた。 ○感染症対策をしながら、ペアやグループワークで他者との対話的なやりとりのコミュニケーション活動ができた。 【次年度の課題】 ○ALTの来日が未定のため、実践的コミュニケーション能力の育成のための時間の不足。 ○全商英語検定の（3級）の指導法と対策。 ○パフォーマンステストの計画的な実施。 ○基礎学力の低下をどう防ぐか。
			単元ごとに課題をおこない、学習ノートの提出により、きめ細かく、継続的に理解不足の生徒に対して指導する。	A		
		資格取得のための指導に努める。	全商英検3級合格60%を目標に、上位の級の合格者も出るように対策課外等を実施する。特に情報ビジネス科は主体的な習慣課題の取り組みの定着を図る。	B		
		実践的コミュニケーション能力の向上に努める。	ALTとのティームティーチングを存分に活用し、主体的にコミュニケーションをすることで、リスニング・スピーキング能力を高める。	C		
			ペアワーク・グループワークを積極的に取り入れ、他者との対話的なやりとりを通じて自らの考えを深めながら、コミュニケーションを積極的にしようとする態度を育成する。	B		
	家庭	主体的・対話的で深い学びを実現するために、基礎的・基本的な知識と技術を習得する。	ICT機器を効果的に活用し、具体的でわかりやすい授業を展開する。	B	B	【達成状況】 ○学習ノート等の提出物は単元ごとに点検し、未提出がないように指導することができた。 ○きゅうりの半月切りや厚焼き卵の実技テストを実施することで、基礎的な技能を定着することができた。 ○新型コロナウイルス感染予防対策をしながら、調理実習をすることができた。 ○ホームプロジェクト活動を通して、家庭生活に関心を持たせ、主体的に生活の改善向上に取り組もうとする姿が約9割の生徒に見られた。 【次年度への課題】 ○ICT機器を効果的に活用した授業の実施 ○無気力な生徒への指導の工夫
			プリント・学習ノートの活用や実技テストを実施して、基礎的な知識・技能を定着させる。	B		
			実験・実習を通して、コミュニケーション能力を養い、協調性や自主・自立の精神を育成する。	A		
		家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。	ホームプロジェクト活動を通して、家庭生活の質を向上させる。	A		
	商業	学力・指導力の向上を図る。	生徒一人一人の実態を把握し、「わかる」「できる」「楽しい」授業を目指し、知識の定着を図る。また、探究的活動を通してビジネスに関する発展的学習を行い知識を活用する力の育成に努める。	B	B	【達成状況】 ○ICT機器の利用や検定指導等とおして「わかる」「できる」生徒は増えている。 ○地域との連携した活動が継続できている。 ○出前授業は2校のみの実施であった。 ○各科目の中でコミュニケーション能力を身に付ける工夫がされている。 【次年度への課題】 ○「楽しい」授業をするための工夫が必要である。 ○地域との連携の継続と拡大に努める。 ○出前授業の回数増加やオンラインでの出前授業の実施や代替となる広報活動を検討する。 ○各科目で発表する機会を増やし、伝える力を養う。
			ICT機器を利用した授業の構築や授業研究を通して、授業改善を行い、主体的・対話的な深い学びの実現に向けた指導力向上に努める。	B		
商業教育の広報活動に努める。		地域と連携した商業教育の推進や商業教育の理解をさらに深めるために、体験入学や出前授業の内容を工夫して実施する。	B			
ビジネスにおける実践力の育成を図る。		総合実践をはじめ、すべての商業科目の中でビジネスマナー及びコミュニケーション能力を身につける工夫をし、育成する。	B			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題		
校務分掌	教務	全教職員が電子黒板やタブレットを積極的に活用し、授業における使用頻度を高める。	A	<p>【達成状況】</p> <p>○休校中のオンライン学習の他、全職員が電子黒板やタブレットを使用する機会が増え、利用技術の向上も見られた。</p> <p>○コロナ禍にも関わらず、各学年で朝ドリルを計画・実施し基礎学力の向上に努める事ができた。また、先生方が指導内容を工夫し、資格取得では例年どおりの結果を残したり、学びに向かう姿勢に改善が見られる生徒も増加した。</p> <p>○休校期間中はオンライン学習で、また通常登校再開後は終業式や始業式の日程、修学旅行等の特別時間割りでは出来る限りの授業時間の確保を念頭に作成、実施できた。</p> <p>【次年度への課題】</p> <p>○新教育課程の初年度にあたるので、各教科の「指導と評価の一体化」を念頭に置いた観点別評価の適正な評価規準の作成及び運用。</p> <p>○コロナ禍で学習習慣が定着せず、基礎学力の向上や資格取得に影響の出た生徒も一部にいたので、コロナ禍においても着実に基礎学力や学びの姿勢の向上につながるような教員側の工夫。</p> <p>○今年度は「指導と評価の一体化」のための学習評価に係る内規の改定をしたが、教務部内での話し合いを行わなかったため、教務の先生方が積極的に関わられるような工夫。</p> <p>○情報の保護・管理については、持ち出し用USBの管理においてやや甘さが見られたので次年度は厳格に実施する。</p> <p>○部活動の全国大会出場などの情報発信について不十分だったので、次年度については特にICT担当教員を中心にさらなる積極的な情報発信に努めたい。</p>		
		ICT機器利用技術の職員間の情報共有をして、利用技術の向上を目指す。	A			
		教育課程の編成に努める。	B			
		基礎学力の低い生徒への指導を充実させ、学業不振の転退学者の減少に努める。	B			
		内規の検討を行う。	B			
		授業時間の確保に努める。	A			
		情報の保護・管理に努める。	B			
		HPの適正な運営と教育活動の公表に努める。	B			
	生徒指導	学校全体で挨拶を活性化させる。	廊下等での挨拶を教職員・生徒全体で行う。		B	<p>【達成状況】</p> <p>指導が浸透してきたことから、生徒たちは落ち着いた学校生活を送ることができた。しかしながら、交通事故の発生、交通マナー、学校外のマナーといった校外の部分では状況は思わしくなかった。</p> <p>【次年度への課題】</p> <p>基本的な生活、服装容儀、ネットモラルについてはその必要性を説きながら引き続き様々な方法を指導していく。</p> <p>学校外の行動(交通マナー、安全運転、公共マナー)について指導する機会を増やし、学校内外で真に社会性のある生徒を育てる。</p> <p>社会の変化、多様な価値観をとらえながら指導を工夫する。また、必要に応じて規則や運用の見直しを実施する。</p>
		服装・頭髪等について校則を守らせる。	生徒の納得を得る指導をしながら登校指導、授業、休み時間において職員間の温度差が無い指導をする。		B	
		ネットモラルを定着させる。	スマホ安全教室、道徳の時間、ホームルーム等でSNSの使い方、インターネットに潜む危険を指導する。		B	
		交通ルールを守らせ、事故を未然に防ぐ。	校外立哨指導や、HR等で注意を呼びかける。また、自転車点検・交通安全講話、バイク実技講習会等を実施する。		A	
		問題行動を未然に防ぐ。	立哨指導や昼休みの校内巡回を行う。服装検査や様々な集会等で、起こりうる問題行動等について注意を促す。また、自転車の盗難防止のための鍵かけを促す。		B	
		教育相談活動を充実させる。	年3度の担任面談の他、スクールカウンセラーによる生徒、保護者へのカウンセリングの場を用意する。		A	
特別活動	生徒会・HR活動の活性化につとめる。	生徒会役員を中心に、生徒会組織を生かした学校行事運営を図る。	B	<p>【達成状況】</p> <p>○コロナ禍は続いているが、生徒実行委員を組織的に活動させることで、感染対策をしつつ体育的・文化的行事が無事実施できた。生徒間では、感染対策は日常化しつつある。</p> <p>○ICTを活用した行事運営ができた。若手の活躍もあり、ライブ映像の配信が実施でき、各教室で視聴ができた。行事内容については、柔軟性をもって対応し、ほぼ予定通り実施できた。</p> <p>【次年度への課題】</p> <p>○部活動の加入率が低下した(46%)。これまでの部活動紹介・壮行会等で活動紹介等をしてきたが、成果は今一つであった。部活動への意欲を高める工夫が必要であろう。</p> <p>○生徒会役員をうまく動かせていない。活動自体も縮小せざるを得ない部分が多かった。行事運営等を通して改善していく。</p> <p>○リモートで実施した行事においては、実施方法のさらなる工夫、通信容量改善等を図っていく。</p>		
	部活動加入率60%を目標とし、年間を通してその維持に努める。	部活動所属生徒の活躍を校内や地域社会に知らせることで、各部活動の入部者を増やし、意欲的な取り組みを促す。	C			
		部活動の生徒を中心に、挨拶等のマナーアップ、学校周辺の美化活動等に取り組む。	B			
	体育的行事、文化祭等の学校行事に対し、生徒の主体的参加を促す。	各ホームルーム役員および委員会の生徒を中心とした活動を活発化させることで、学校行事の充実を図る。	B			
	生徒会活動を通してキャリアパスポートを推進する。	多くの行事を通して、自ら計画・振り返りをしながら主体的な活動ができる力を育む。	B			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題	
校務分掌	進路指導	年次に応じた適切な進路ガイダンスを実施し、意識の高揚を図る。	A	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○予定したガイダンスはほぼ実施することができた。 ○キャリアパスポートの活用においては、学年により差が出てしまった。 ○企業の担当者や3年生から説明や体験談を聞くことで、進路活動に前向きに取り組む生徒が増えた。 ○会社見学は100%（見学NGの企業を除く）、オーキャンにもかなりの生徒が参加できた。 ○基礎学力に関しては、現状と比較して大きな変化は見られなかった。 ○学校や企業との連絡を密にし、素早い対応ができた。また、ハローワークからも適切な助言をもらうことができた。 ○3年生以外はほとんど進路資料室が活用できていなかった。 ○教員間の情報共有が十分ではなかった。 <p>【次年度への課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○進路ガイダンスにおける進路指導部と学年のさらなる連携。 ○キャリアパスポートの蓄積・活用において学年間の差をなくす。 ○基礎学力の向上。 ○教員側の負担を軽減するため、面接指導方法の見直し。 ○進路資料室の環境整備。 ○情報共有に必要なコミュニケーションの充実。 ○新システム（「Handy進路指導室」）の活用。 	
		キャリアパスポートや適性検査を活用し、自己理解を図る。	B		
		企業説明会や体験発表を実施し、進路決定に役立てる。	A		
		会社見学や各学校のオープンキャンパスへの、オンラインを含めた積極的な参加を促す。	B		
		基礎学力の向上と面接指導の充実を図る。	B		
		学校や企業、ハローワークとの連携を密にし、生徒に適切な情報を提供する。	A		
	進路に関する情報提供を充実する。	進路資料室を整備し、生徒が情報を収集しやすい環境を整える。	B		
		定期的にデータの整理を行い、教員間で情報を共有・活用できるように努める。	B		
	環境整備	清潔な環境を目指す姿勢を育てる。	教室等のワックス塗布やモップの交換を通して、生徒の美化意識の向上に努める。		A
			効率よく環境整備をするためのアイデアを出し合い、創意工夫の能力の育成に努める。		B
			清掃道具を速やかに補充し、生徒自らが意欲的に校内美化に取り組む環境を整える。		B
		環境美化を主体的に実践しようという意欲を育てる。	より清潔できれいな学校にするための中・長期的な計画を、生徒ともに模索する。コロナ禍でも安全に学校生活が送れるよう除菌に努める。		B
	保健厚生	生徒の心身の健康増進を図る。	新型コロナウイルス感染症予防対策の徹底を図る。		B
諸検診の効果的な実施に努める。保健室の効果的な運営に努める。			B		
専門家による性教育を実施する。			A		
学校生活の安全教育に努める。		防火・防災避難訓練会を実施する。危機管理マニュアルの共通理解を図る。	C		
学習環境を整備する。		エアコン、ストーブの安全管理および生徒の健康管理に努める。	B		
		水質検査および室内環境検査等を実施する。	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題		
校務分掌	図書	図書室環境を整備し、学習活動及び各種活動を支援し、情報収集・選択・活用能力を育成する。	蔵書の配置・装飾の工夫や、資料の整理・迅速な手続き処理などにより図書室を利用しやすい環境に努める。	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○オリエンテーションやアンケートをとおして、生徒現状の把握ができた。 ○放課後の活動も自主的に、蔵書管理や装飾作業などできた。 ○図書だよりは、図書委員の活動により原稿の依頼から作成まで意欲的にできた。 ○情報機器の放課後利用はできなかった。 <p>【次年度への課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本を借りている人が同じ人が多いので、多くの生徒が借りるようにしたい。 ○日報の改善と工夫（借り出し種類や冊数を常に把握できるようにする） ○図書だよりの原稿が集まらないので徹底したい。 ○校外活動もできれば実施していきたい。（ボランティア読み聞かせ、文学散歩など） ○図書委員の活動メンバーが固定しているので全員で活動させたい。 ○生徒への読書推進。 	
			1年生全員に図書室利用のオリエンテーションを実施する。アンケートにより読書への関心等の状況を把握する。	B		
		読書指導と読書の推進を図り、主体的・意欲的な学習活動や読書活動を充実するよう努める。	新刊本の表紙をカラーコピーし、資料の提供を行う。情報機器の利用を工夫し放課後等の活動に活用する。	B		
			リクエストボックスをとおして購入希望図書を募り、随時購入希望を受け付ける。	B		
			生徒発行の「図書室だより」を年間3回以上発行して新着図書案内を行い、読書に対する関心を高める。その他、図書の広報に努める。	B		
		図書室内の装飾・蔵書点検・環境整備・リクエストボックスの回収等における図書委員活動の主体性を図る。	A			
	渉外	PTA総会・各種行事、会合への保護者の参加率を高め、学校・家庭との連携を密にする。	PTA総会をはじめ各行事への参加率を高めるための工夫・改善をする。	C		<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルスの影響で、PTA総会をはじめさまざまな行事・研修会・会合が中止になり予定通りの活動ができなかった。 ○コロナ禍で学校行事が制限される中、生徒・保護者等の協力により、PTA広報誌「鬼怒」を発行することができた。 ○同窓会を中心に50周年記念事業の準備を進めた。 ○スクールバスの安心・安全な運行を継続することができた。 <p>【次年度への課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○PTA総会をはじめPTA行事への参加率の向上を図る。 ○PTA相互の親睦を深め、相互協力体制を強化する。 ○役員会等で今後の課題・展望について意見を集約し、PTA活動の活性化を図る。 ○文書・メール配信などを利用して、保護者との連絡を密にする。 ○スクールバスの安心安全な運行を継続できるよう取り組む。
			学校の教育活動を積極的に広報するため、メール配信やPTA広報紙「鬼怒」の充実を図り、保護者の学校理解を深める。	B		
			会員相互の親睦をはかるため、保護者対象の研修旅行等を実施する。	C		
			高P連やさわやかマナーアップ運動等の学校内外への保護者の積極的な参加を促し、得た情報を共有する。	B		
PTA支部研修会を実施し、保護者同士・職員の情報交換を行い、協力体制を確立する。			B			
50周年記念事業に向けて、同窓会の組織・強化に努める。		同窓会役員との連絡を密にして、組織の活性化、強化に努め、記念事業の準備を進める。	B			
スクールバスの安心・安全な運行を継続する。	スクールバス運行委員会において、問題点を把握し、安心安全に通学できるようにする。	B				

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
一 学 年	挨拶の励行と礼節をわきまえた行動を意識させる。	HRや授業等において日常的に挨拶・正しい制服の着こなしなどの指導をおとして生徒の自律を促す。	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○挨拶や制服の着こなしなど、ほとんどの生徒はしっかりとできた。 ○時間厳守の意識は高いレベルで定着し、集会等時間前には整列完了し時間通り開始することができた。 ○日常の生活も落ち着いており、大部分の生徒は充実した生活を送ることができた。 ○進路関係の行事も滞ることなく実施することができ、生徒は意欲的に取り組みそれらを通して、将来の進路に向けて計画的に活動できると考える。 <p>【次年度への課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○挨拶や時間前行動を意識した行動を促し、自立に向けた生活習慣の定着を図る。また、集団生活の中でコミュニケーション能力を高め、教職員と相談しやすい環境づくりをしていじめ等の未然防止を図る。 ○多くの資格取得を目指し、計画的に学習する環境を整え指導する。また、生徒が自発的に資格取得に対する学習に取り組むよう意識の高揚も図る。 ○部活動や学校行事等で中心となって、積極的かつ意欲的に取り組めるよう指導する。 ○卒業後の進路に対して、具体的に決定させるため進路ガイダンスなど進路関係の行事を充実させる。
	時間厳守の意識を高める。	日常的に時間を守ることの重要性を意識させる指導をおこなう。また、生徒が安心して意欲的に学校生活がおくれるよう個別面談などを実施し、生徒が相談しやすい環境を整える。	A	
	鬼怒商業高校の生徒としての自覚と責任をもたせ、規範意識を高める。	本校のルールをしっかり理解させ、服装・頭髪及びスマートフォン使用に関するモラル指導を徹底し、社会規範意識の向上に努める。	B	
	授業・学校行事の大切さを理解させる。	基礎学力の定着を図り、学ぶ喜びが得られるように指導をおこなう。学校行事や資格取得に対して積極的に取り組むことで、将来の可能性が広がることを進路ガイダンス等で指導する。	B	
	進路についての意識を高めさせる。	進路ガイダンスをおとして、将来を見据えた計画的な学習活動ができる環境を整える。	A	
学 年 二 学 年	集団生活におけるマナーを身に付け、コミュニケーション能力を高める。	挨拶を習慣化し、相手の気持ちを考えて行動することを、日常的に考えさせる。また、様々な場面で、生徒同士がコミュニケーションをとる機会を設ける。	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ほとんどの生徒が集団生活のルールを概ね遵守しており、修学旅行や進路行事に主体的に取り組むことが出来たと考える。 <p>【次年度への課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科指導や学年行事等の様々な場面で、これから必要な人材育成のための指導を今まで以上に意識し、新しい社会構造に対応できる力をつけていけるような取り組みが必要である。その一環として、資格取得に向けて、より一層の指導体制の強化を行うことも求められる。 ○来年度は、生徒それぞれが、自らの力をつけるための学習内容を考えて、道筋を切り開くことが出来るように仕掛けていきたい。また、生きる力育成のために、1年時より蓄積したキャリア・パスポートを整理して進路活動に活かせるようにしたり、協働学習、課題解決学習を進めていく活動を行う。 ○頭髪や生活に関してはまだまだ注意していく必要がある点が多いので、校則の意義を再確認しながら指導していく。 ○面談や学校評価アンケートの結果を、年度はじめにフィードバックして、生徒指導や進路指導に活かしていく。
	ルールを守り、基本的な生活習慣を確立する。	時間や約束を守るという、社会人としての最低限度の必須項目の実践を通して、ルールやマナーを遵守する、信頼される人物を育成する。	A	
	学校行事に主体的に参加し、仲間意識やリーダー性を身に付ける。	集団生活の中でなぜルールやマナーがあるのか、その意味を理解して、他人に迷惑をかけないよう行動させる。	A	
	資格取得に向けて意欲的な学習をする。	家庭学習を習慣化させ、専門科目の知識をさらに身に付け、資格取得等で結果を残すことが出来るような指導を行う。	B	
	適性を把握し、その適性に合った進路を実現できるように計画的な準備を進める。	自分の適性を学力診断を通して理解し、その上で卒業後の進路が自己実現できるよう、適切な進路ガイダンスや、進路指導計画を実践する。また、キャリア・パスポートの活用や、個別面談を適宜実施しつつ、生徒の個性を伸ばし、進路活動が円滑に進められるよう指導する。	B	
三 学 年	社会人となることを念頭においた規範意識及び時間厳守の定着させる。	校則、マナー等を遵守させながら、自己中心的な行動から他人への気遣いができる態度を促す。また、登校時間や移動教室など、あらゆる場面において時間厳守の定着を図る。	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一部の生徒が落ち着かない生活態度をしていた時期もあったが、ほとんどの生徒が、法令遵守及び時間厳守の節度ある行動ができていたと思う。 ○コロナ禍の中で、難しい面は多々あったが、昨年から延期された修学旅行や様々な制限の中で行われた文化祭等の行事では、各自がそれぞれに意欲的に参加し、各行事を有意義なものにしていったと思う。 ○進路実現に向けての面接練習などを通して、挨拶や適切な言葉遣いなどもできるようになり、学年全体のコミュニケーション能力が向上したと実感している。 ○就職・進学共に、進路指導部と連携をとりながら、個別に対応した結果、ほぼ全員の進路実現を果たすことができた。 <p>【次年度への課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○移動教室の際の遅刻や携帯電話の持ち込みなど、一部の生徒で他学年に悪影響を及ぼすような行動が時折みられたので、気の緩みがないような指導の徹底。 ○コロナ禍でも力強く自身の進路を切り開く自発的行動の促進とさらなるコミュニケーション能力(発信力)の向上。
	学校行事への積極的な参加する。	コロナ禍において様々な制約の中で実施される学校行事に対して、最高学年として後輩の模範となるような態度で意欲的に参加する。特に、昨年度からの延期で計画されている修学旅行を有意義なものとする。	A	
	コミュニケーション能力の向上に努める。	進路を意識したあいさつや適切な言葉遣いのみならず、自分の意見や考えをしっかりと相手に伝えられるようなコミュニケーション能力を身に付ける。	B	
	生徒の進路実現に向けての支援する。	生徒全員が高校卒業後の進路を適切に決定できるよう、適切な進路行事を計画・立案・実行し、必要に応じて個人面談や面接指導を実施するなど、生徒の進路決定を学年職員全員で支援する。	A	
	情報ビジネス科における高度資格取得の実現する。	高度資格(全商簿記1級・ITパスポート等)の合格者を多数出すことを目指し、その成果を各自の進路実現や学校活性化につなげる。	B	

※ 評価基準 A: 目標以上に達成できた B: 目標を達成できた C: 目標を下回った D: 目標を大きく下回った